

伊丹ルーテル教会 待降節第3主日礼拝

2020年12月13日

主を待ち望む

1. 主を待ち望むアドベント 最初の蝋燭灯そう 主が道を備えられた この時を守ろう
★主の民よ 喜べ、主は近い
2. 主を待ち望むアドベント 第2の蝋燭灯そう 主がなされたその様に 互いに助けよう★
3. 主を待ち望むアドベント 第3の蝋燭灯そう 主の恵み 照り輝き 暗闇を照らす ★

招きのことば：詩編126編

【都に上る歌】

主がシオンの捕われ人を連れ帰られると聞いて わたしたちは夢を見ている人のようになった。
そのときには、わたしたちの口に笑いが 舌に喜びの歌が満ちるであろう。

そのときには、国々も言うであろう 「主はこの人々に、大きな業を成し遂げられた」と。
主よ、わたしたちのために 大きな業を成し遂げてください。 わたしたちは喜び祝うでしょう。
主よ、ネゲブに川の流れを導くかのように わたしたちの捕われ人を連れ帰ってください。
涙と共に種を蒔く人は 喜びの歌と共に刈り入れる。

種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は 束ねた穂を背負い
喜びの歌をうたいながら帰ってくる。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、本当にごめんください。私たちは祈ります。私たちを救うため あなたが
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまわり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

私たちはともにクリスマスを待ち望んでいます。イエス様はクリスマスにお生まれになって人となってくださいました。それによって私たちはあなたの愛を知りました。

私たちひとりひとりの人生には、山あり谷ありでいろいろな経験が訪れます。世の冷たさや厳しさにさえぎられて倒れそうになることもあります。イエス様をお送りくださった神さまは、私たちの罪を赦し、私たちの心を新しくして愛と希望に満たしてください、新しい目で人生や社会を見ることができるようになりました。

クリスマス待ち望む今、今年もあらためてあなたの愛を思います。イエス様をお待ちしている間、世にあって与えられている毎日の使命を、今週も喜びをもって、堅実に、心を込めて果たすことができますように私たちを鍛えてください。また、あなたの証し人として、人々にイエス様の福音をお伝えすることができますように、どうか私たちを用いてください。そして、互いに愛し合い、高めあう一週間となりますように。

新型コロナ・ウィルスの感染はまた拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**。

使徒書朗読：テサロニケ第1の手紙 5章 16-24節

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。“霊”の火を消してはいけません。預言を軽んじてはいけません。すべてを吟味して、良いものを大事にしなさい。あらゆる悪いものから遠ざかりなさい。どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように。あなたがたをお招きになった方は、真実で、必ずそのとおりにしてくださいます。

福音書朗読：ルカの福音書 1章 46b-55節

「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。身分の低い、この主のはしためにも 目を留めてくださったからです。

今から後、いつの世の人も わたしを幸いな者と言うでしょう、
力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。
その御名は尊く、その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。
主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、
権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、
飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます。
その僕イスラエルを受け入れて、憐れみをお忘れになりません、
わたしたちの先祖におっしゃったとおり、アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」

讚美歌 108 番

- 1 いざ歌え、いざ祝え、うれしきこの宵、神のみ子 あらわれぬ。いざほめたたえよ。
- 2 いざ歌え、いざ祝え、たのしきこの宵、すくいぬし 世にいでぬ、いざほめたたえよ。
- 3 いざ歌え、いざ祝え、きよけきこの宵、いと高きみどりごを いざほめたたえよ。アーメン

説教：「目を留めてくださった」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

3つ目の蝋燭が点火されました。ご一緒にイエス・キリストの誕生であるクリスマスを待ち望んでいます。クリスマスといえば、たくさんの有名な讚美歌があります。きよしこの夜、諸人こぞりてなど、昔から人々はキリストのお生まれになった厳かな喜びをうたってお祝いしてきました。寒く冷たい夜に、さやけき光が灯り、心が温かくなる讚美歌です。

今朝はイエス様をお産みになったマリヤさんのうたった讚美歌が読まれました。ルカによる福音書 1 章 46 節からの箇所です。「マリヤの賛歌」として、またラテン語の出だしのことばで「マグニフィカート」と呼ばれて親しまれています。

私の魂は主をあがめ、私の霊は救い主である神を喜びたたえます、と歌っています。全身全霊で神さまを賛美している姿があります。明らかにマリヤは神様を喜んでいます。でもそれは当然なことでしょうか。

マリヤはナザレという村の少女でした。一方的な天使の声を聴いていました。結婚する前なのに婚約者ヨセフとの関係によらない不思議な男の子を宿すというお告げを天使から聞きました。もしそんなことが本当に自分の身に起こったら、ヨセフには誤解されて離縁されるかもしれません。いや、そもそも当時のユダヤの厳しい戒律によって姦淫の女として人々から石打ちの刑に合うという恐れや不安がありました。

そのまま受け入れることのできない御告げを受けて、マリヤは天使に、どうしてそんなことがありえるでしょうか、と尋ねました。このときはまだ十分に知らされていなかったのですが、マリヤが産むことになる息子イエス・キリストは、罪びととして十字架にかかって死んでいく場面に立ち会わなければなりません。ですから、救い主の母となることは実際にはそんなに喜ばしいことではありませんでした。むしろマリヤは困ったことになりました。不安と恐れが心に広がっていくことだったのです。

私たちの人生には、なぜこんなことがありえるのか、頭でいくら考えてもわからないことがあります。なぜこのタイミングで、なぜこんなことが、なぜ私たちの上に起こるのか。誰に聞いても納得できる説明をしてくれる人がいないようなことが人生に起こるのです。

47節でマリヤは、「わが魂」が主をあがめ「わが霊」が救い主である神を喜びたたえます、と歌いました。きっと頭ではわからないのに、すべては神様の御手の中にあることであって、偶然の出来事ではない、と魂が叫んだのでしょう。そこに何ものにも打ちのめされない信仰の姿があります。どんなことがあっても、魂の底からうめき、うなるように、神様への賛美がこみあげてくるという姿です。

48節には賛美する理由がうたわれています。「身分の低いこの主のはしためにも目をとめてくださったからです」と言うのです。身分の低さというのは社会的地位の低さということよりも、とるにたらない、無に等しい存在ということ。そんなぼろぼろの私のようなものに神様が目をとめてくださったことで、マリヤは神様を喜びたたえています。

これまでの自分の信念、裏付けのない楽観がはぎとられてしまって、無力な自分がむき出しにされてしまったただただ悲しく、自分が無に等しいと感じるときに、マリヤは神様がどれほど憐み深い方かを知ったのです。詩編 119 編 71 節に、「卑しめられたこと（苦しみにあったこと）は私にとって良いことでした。わたしはあなたのおきてを学ぶようになりました」とうたわれています。自分のなにものにも頼ることができない、私たち人間の本来の姿に立たされた時、これまで気づかなかった神さまの憐みを味わうことになったのです。

クリスマスの讃美歌は単なる表面的な明るさで暗い現実をしばらく忘れるためのものではありません。マリヤの賛歌は不条理と不安のなかで、人の思いを超えて、すべてを統べ治めて確かに生きて働いておられる神様を見出し、その圧倒的なあわれみによってマリヤは歌をうたったのでした。暗い現実をご支配くださる温かい神さまの憐みを味わったからです。

マリヤの宿したイエス様は神の独り子です。父なる神様は私たちを救うために、その独り子であるイエス様を手放してくださいました。何にも代えることのできない最愛のものを私たちのためにお与え下さいました。そこに神様の私たちへの圧倒的な愛があります。

無力なのに、頑固にも頼りにならない自分の何かにしがみついてきた私たちが、私たちをおつくりになった神さまのもとに正しく赦されて帰ることができるように、神様は独り子のイエス様を私たち人間に与えてくださいました。イエス様は十字架で血を流して死んでくださり、私たちの罪を償ってくださったのです。

どうしてそんなことがありえるでしょうか、と尋ねたマリヤは、み使いのお答えを聞きます。1章35節です。「聖霊があなたにくんだり、いと高き方の力があなたを包む、生まれる子は聖なるもの、神の子とよばれる。神さまにはできないことは何一つない」と言われました。マリヤは「あなたが言われる通り、この身になりますように」とすべてを神様の御手にゆだねました。

苦しみの中にいる私たちに、愛なる神様は出会ってくださいます。順調にものごとが運んでいるときは、私たちは神様はほんとうは無力な方だ、何もできない方だ、と考えて、神様には何の期待ももたずに、信頼して祈ることもしません。また、反対に、神様がいらっしゃったとしても、自分と何の関係があるのか、神様が私に関心をもっているはずはない、と漠然と考えています。しかし、神様はすでにあなたのためにイエス様をお送りくださっています。架空の、作り事の愛ではなくて、神様はご自分の独り子を与えるほどの真実な愛をもって、私たちに今日出会ってくださいます。あなたを作り、あなたをここまで導いてくださった神さまは、あなたを決して見捨てず、見放すことはありません。むしろ、私たちの苦しみのなかで、独り子をお与えになった愛をもって私たちに出会ってくださいます。その愛は、自分の力におごり、思いあがって力を振りかざすものにはわかりません。自分の力で豊かになったと思ってこれまでの努力や精進に自己陶醉しているものにはわかりません。

今年のクリスマスに、マリヤの魂の賛歌をともに歌いましょう。ともにこのように祈りませんか。神様、私に目をとめてくださってありがとうございます。神様、この世にはわからないことがたくさんありますが、独り子イエス様をお与え下さるほどに私たちを大切にしてください。あなたの愛の御手に任せてこれから歩いていきます、どうぞ導いてください。この真心の祈りこそ、わが魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます、と歌ったマリヤの賛美です。

マリヤは無に等しいものでしたが、神様が目をとめてくださいました。そして、マリヤにはこれまで考えることのなかった新しい使命をいただきました。救い主を産んで育てることです。マタイによる福音書1章には、み使いがいよいよはずけのヨセフのところへ現れて、心配しないで

マリヤをめとるようにと導いてくれました。マリヤは自分でどう説明してもきっとヨセフからの疑いの雲は晴れないところでしたが、案ずることはありませんでした。神様は人の思いを超えて働いてくださって、マリヤは最愛のヨセフに心からの理解と支えをうけることができました。

こうしてマリヤとヨセフの家庭にイエス様が産まれることになり、ふたりは救い主を育てたのです。神様から託された御子イエスを育てました。マリヤは十字架で死を迎えたわが子イエスに立ち会いました。そのときマリヤは、なすべきことを果たしたイエス様を神様にお返ししたのです。

私たちの生涯に神様は使命を与えてくださっています。いのちを使うと書いて使命と読みます。人は自分のためではなく、神様と人々のためにいのちを使う使命を神様からいただいています。悲しみの中で、苦しみの中で、神様は私たちにご自分を現わしてくださいました。神様が私に目をとめてくださいました。この確かな喜びは誰にも奪うことはできません。洗礼は私たちをこのイエス様とひとつにしてくださる神様のみわざです。イエス・キリストを救い主としてお送りくださった神さまを信じる信仰によって、今週も与えられた使命に堅く立って、人々の役に立って歩いていきましょう。あなたを大切に思い、イエス様によってあなたのすべての罪を赦して、神様の子どもにしてくださる神様の恵みとやすらぎが豊かにありますように。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

讚美歌 191 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 いともとうとき主はくだりて、血のあたひもて民をすくい、
きよきすまいをつくりたてて、そのいしずえとなりたまえり。
- 2 四方のくによりえらばるれど、のぞみもひとつ わざもひとつ、
ひとつのみかて ともに受けて、ひとりの神をおがみたのむ。
- 3 さわのあらそいみ民をさき、世人そしりて なやむれども、
かみはたえざるいのりをきき、なみだにかえて歌をたまわん。
- 4 世にのこる民去りし民と ともにまじわり、神をあおぎ、
とわのやすきを待ちのぞみて、君の来ますをせつにいのる。 **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。**アーメン**

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ。**アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。**アーメン**

後奏